

薬量140, 280g, 芝生育中の茎葉または土壌処理として行なわれた。

大相模 C.C. : ヒメクグに対し茎葉処理を行なった結果, 殺草持続効果が長く, 徐々にほふく茎にまで及び, 60日後には完全枯死に至った。280gで実用化出来る。ただ加圧噴霧器のノズルが詰まり易いので使用量の軽減か何か改善が望まれるとしている。

柏 G.C. : 雑草発生前土壌処理の280gでスズメノカタビラには効果大, ヒメジオン, クローバー, チドメに対しては極めて高い効果を

示した。ただし, 2週間後には回復したものの葉先枯れがあるので薬量と薬害の関係について再検討を要するとしている。

浜松シーサイド G.C. : 具体的データーがなく, 考察もされていないので何ともいえない。

この薬剤は春夏作でかなり試験され, 実継の判定を得ているので, そのことを考慮しながら検討された結果実継の判定とした。葉先枯れが起こったのは剤中のDSMAのためと思われるが, 程度が軽いので問題とされなかった。

昭和49年度水稻作関係除草剤 第一次適用性試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和49年度水稻作関係除草剤の適1試験(第1次適用性試験)については, 適1試験関係者, 専門調査委員, 植調協会が参会して, 6月29日から4日間にわたり北海道(中央), 東北(岩手県南), 関東東山東海(栃木)とまわり中間現地検討を, また7月23日から3日間は四国(香川), 中国(広島), 九州(佐賀)におい

てそれぞれ同様の中間現地検討会を開催して, 中間成績や問題点などについて検討してきたが, 去る9月17日には東京(農林年金会館)において中央検討会を開催して, 最終試験成績を検討し適1としての判定を行なった。ここにその結果を紹介する。

<第1表> 供試除草剤および試験実施地域

No	薬 剤 名	剤 型	試 験 実 施 地 域
1.	RH-2915 (未 公 開 2%) (単 剤)	粒	成 苗: 東北, 関東*, 九州 稚 苗: 北海道, 東北, 北陸, 関東, 中国, 四国, 九州
2.	RH-2915 (未 公 開 24%) (単 剤)	乳	成 苗: 東北, 四国 稚 苗: 東北, 九州

No	薬 剤 名	剤 型	試 験 実 施 地 域
3	RH-2915SM (未 公 開 1 + 1 1 %) (混合剤)	粒	稚 苗： 東北，関東，四国，九州
4	SL-041 (未 公 開 1 0 %)	液	成 苗： 北海道，東北，関東，九州
5	SL-042 (未 公 開 1 0 %)	液	成 苗： 北海道，東北，関東，九州
6	M-351 G-315 : 8 % MBR-8251 : 14 %	乳	成 苗： 東北，九州
7	MT-120 ジフェニール エーテル系 7 %	粒	成 苗： 東北，九州 稚 苗： 北海道，東北，北陸，中国，九州
8	MT-220 MT-120 : 7 % ウレア系 : 7 %	粒	成 苗： 九州 稚 苗： 北海道，東北，中国，九州
9	X-52混剤-1 (3種 : 7 + 2 + 7 %)	粒	稚 苗： 北海道，東北
10	X-52混剤-2 (2種 : 7 + 7 %)	粒	稚 苗： 北海道，東北，北陸，四国，九州
11	MC-1 (2種 : 5 + 6 %)	粒	稚 苗： 北海道，北陸，関東，四国，九州
12	MK-129M (2種 : 4 + 4 %)	粒	稚 苗： 北海道，東北，関東，九州
13	AN-1 (2種 : 8 + 8 %)	粒	成 苗： 九州
14	MA-3 (未 公 開 約100 %)	水 和	成 苗： 九州
15	KH-191 (3種 : 5 + 4 + 2 %)	粒	成 苗： 北海道，関東，四国
16	NP-31 (未 公 開 4 %)	粒	成 苗： 北海道，北陸，四国

№	薬 剤 名	剤 型	試 験 実 施 地 域
17	B-3015・BAS・MCPB (10+7+0.8%)	粒	稚 苗： 関東，四国，九州
18	MT-B-3015・MCPB (7+7+0.7%)	粒	稚 苗： 中国，四国，九州
19	MC-2 (3種： 8+7+0.7%)	粒	稚 苗： 北海道，北陸，関東，九州
20	MC-3 (3種： 8+7+0.7%)	粒	稚 苗： 北海道，中国，九州
21	NTN-80KM NTN-80： 8% Kue-2079A： 2% MCPB： 1%	粒	稚 苗： 東北，中国，九州
22	N-301 G-315： 1% モリネート： 8% MCPB： 0.8%	粒	成 苗： 四国 稚 苗： 北海道，九州
23	SW-741 H-686： 0.7% シメトリン： 1.5%	粒	稚 苗： 東北，北陸
24	S-64X S-64： 5% X： 1.5%	粒	成 苗： 北海道，関東 稚 苗： 北陸，関東，四国
25	TH-63(Na) CG-7102： 4.4% CG-7103： 1.1% BAS-3510： 10.0%	粒	稚 苗： 東北，中国，四国

注： * 関東は関東東山東海地域の略。

<第2表> 判 定 結 果

№	薬 剤 名	判 定 結 果
1.	RH-2915 粒	荒代時混和，植代時混和处理とも適用性がある。 効果，薬害に変動性。温度との関係についての検討が必要。 (適2実施中)
2.	RH-2915 乳	
3.	RH-2915SM 粒	荒代時，植代時混和で適2試験に移す。 使用量の検討。

No	薬 剤 名	判 定 結 果
4.	SL-041 液	植代直後処理で適2試験に移す。 使用量の検討。
5	SL-042 液	植代直後処理で適2試験に移す。 適用性は041 $\leq$ 042の傾向がある。
6	M-351 乳	植代前、直後処理で適2に移す。 減量の可能性がある。
7	MT-120 粒	田植前後土壌処理で適2に移す(雑草発生前~始期)
8	MT-220 粒	田植前後土壌処理で適2に移す(雑草発生前~ノビエ1.5ℓ) コナギ、ヘラオモダカにはやや劣る。
9	X-52混剤-1 粒	田植前後土壌処理で適2に移す(雑草発生前~ノビエ1.5ℓ) コナギ、ヘラオモダカにやや劣る。
10	X-52混剤-2 粒	田植前後土壌処理で適2に移す(雑草発生前~ノビエ1.5ℓ) ヘラオモダカ、ウリカワは対象外。また、土壌処理ではコナギ にも弱いので注意する。 混合比の検討も必要。
11	MC-1 粒	田植前後土壌処理で適2に移す(雑草発生前~ノビエ1.5ℓ) ヘラオモダカ、ウリカワは対象外、ただし、発生始のウリカワ には効果が認められる。
12	MK-129M 粒	ノビエに対する効果を高める混合比の検討が必要である。
13	AN-1 粒	雑草発生始期400g/a以上で持続性を考慮しながら検討する。 (適2実施中)
14	MA-3 水和	持続性を考慮して検討する。 (適2実施中)
15	KH-191 粒	田植後土壌処理で適用性がある。 (適2実施中)
16	NP-31 粒	広葉雑草に効果が認められるが、混剤化の検討が必要である。
17	B-3015・BAS・MCPB 粒	田植後茎葉兼土壌処理で適2に移す。(ノビエ2.5ℓころ)
18	MT-B-3015・MCPB 粒	田植後茎葉兼土壌処理で適2に移す。(ノビエ2.0ℓころ)
19	MC-2 粒	田植後茎葉兼土壌処理で適2に移す。(ノビエ2.0ℓころ) 薬害、とくに寒地での薬害について検討。
20	MC-3 粒	田植後茎葉兼土壌処理で適2に移す。(ノビエ2.0ℓころ) 薬害、とくに寒地での薬害について検討。
21	NTN-80KM 粒	田植後茎葉兼土壌処理で適2に移す。(ノビエ2.0ℓころ)

No	薬 剤 名	判 定 結 果
22	N-301 粒	田植後茎葉兼土壌処理で適用性がある。(ノビエ20ℓころ) 製剤検討が必要。(適2実施中)
23	SW-741 粒	混合剤(混合薬剤, 混合比)について更に検討が必要である。
24	S-64X 粒	混合比の検討が必要である。
25	TH-63 (Na) 粒	田植後茎葉兼土壌処理で適2に移す。(ノビエ2.5ℓころ)

新 登 録 除 草 剤 一 覧

農林省農蚕園芸局植物防疫課

昭和49年6月1日～10月31日

分類	種類名	商品名	有効成分の種類及び含有量	剤型	適用作物・適用場所	適用雑草	適用地帯	適用土壌	使用時期	10アール当り			使用方法	登録会社
										使用量	散液	布量		
非 ホ ル モ ン 型 除 草 剤	シメトリン・ブタクロール除草剤	マーシエット S	2-クロロ-2,6'-ジエチル-N-(ブトキシメチル)アセトアニリド 4.0%	粒剤	普通移植水稲	ノビエ等水田1年生雑草及びマンバイ	全域の普通期及び早期栽培地帯	砂壤土～埴土(縦浸透2cm/日以下)	田植後7～15日(ノビエ2.5葉期まで但し寒地は2葉期まで)	3～4kg			湛水のまき手まきあるいは散粒機で水面に均一に散布する。	三菱モントサント三菱化成三共北海三共日本農薬
			2-メチルチオ-4,6-ビスエチルアミノ-S-トリアジン 1.3%		稚苗移植水稲		暖地を除く全域の普通期栽培地帯[関東, 東山の早期栽培地帯を含む]		田植後8～12日(ノビエ2葉期まで)					
							北海道・東北・北陸地域		田植後20～25日ノビエ2葉期まで[田植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用]					